

# 南丹保健所管内の感染症発生動向調査による週報

(急性呼吸器感染症定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

第 5 週 2026 年 1 月 26 日 ~ 2 月 1 日

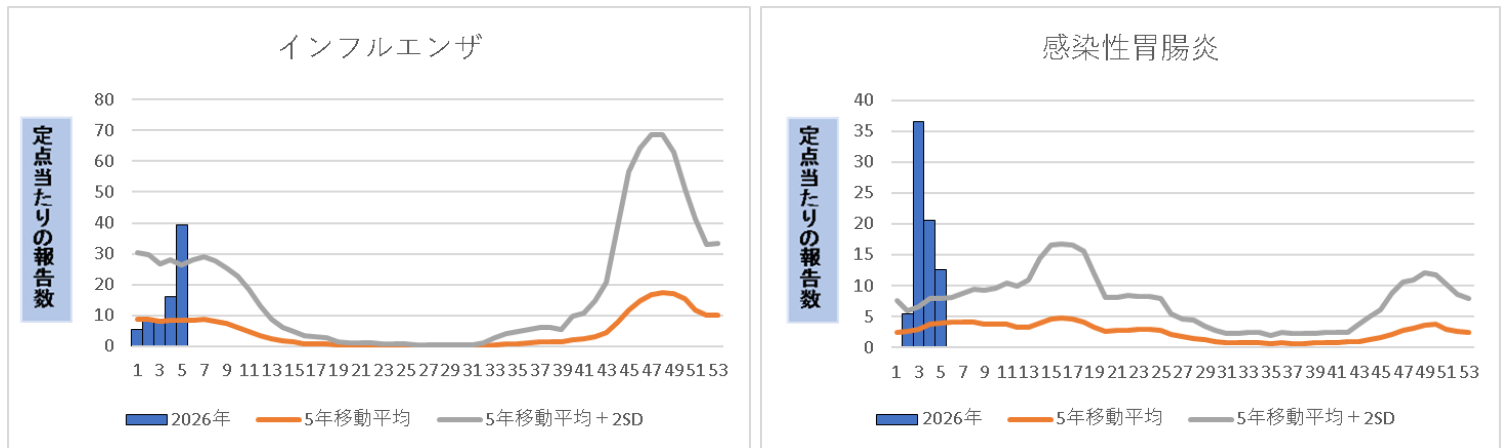
## 今週のコメント

南丹保健所管内では、**インフルエンザ**が**警報レベル**になりました。  
南丹保健所管内では、**感染性胃腸炎**と**水痘**で**警報レベル**継続中です。

### 2026 年第 5 週の報告です。

- インフルエンザの定点当たりの報告数は南丹 39.25(前週 16.00)、京都府 26.76(前週 15.73)となっています。
- 感染性胃腸炎の定点あたり報告数は、南丹 12.50(前週 20.50)、京都府 9.03(前週 8.69)となっています。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点あたり報告数は、南丹 7.00(前週 6.00)、京都府 3.59(前週 4.38)となっています。
- 水痘の定点あたり報告数は、南丹 1.00(前週 1.50)、京都府 0.33(前週 0.77)となっています。

## 今週のグラフ (下記のグラフは管内上位2位疾患のグラフを掲載しています)



※横軸は週数 縦軸は定点あたりの報告数を示しています

- 『5 年移動平均』は、過去 5 年間の平均値の変化を表しています。
- 『5 年移動平均+2SD』は、過去 5 年間のデータのばらつきを考慮した上限を示しており、データの約 95%がこの線より下に収まるとされる基準です。

## 京都府内で令和 8 年 1 例目となる麻しん(はしか)の報告がありました。

### 麻しんの予防接種歴を確認しましょう。

今年に入って京都府内 1 例目となる麻しん(はしか)の報告がありました。日本は 2015 年に WHO(世界保健機関)から「麻しん排除」の認定を受けて以降、排除状態を維持していますが、世界的には麻しんの流行が続いており、海外輸入例やこれを発端とした感染事例が国内で度々起こっています。

麻しんは、非常に強い感染力を持つ麻しんウイルスの感染症であり、免疫を持っていない人が感染すると、ほぼ 100%発症します。感染すると、通常 10 日程度の潜伏期間を経て、発熱、咳、眼の充血といった風邪様症状が出現し、これが数日間続きます(カタル期)。その後、一旦解熱傾向になるも、頭頸部を起点に体全体に広がっていく発疹とともに再び高熱が出現します(発疹期)。そして、重症化しなければ症状発現後 7~10 日で回復します(回復期)。人に感染させる期間は、発症 1 日前から解熱後 3 日までの間であり、カタル期の感染力が最も強いと言われます。麻しんに特効薬はなく、治療は解熱薬の投与などの対症療法が主です。

麻しんウイルスの主な感染経路は空気感染であるため、通常のマスクや手洗いだけでは感染予防として不十分ですが、ワクチン接種により予防が可能です。ほとんどの人は、2 回のワクチン接種により麻しんウイルスに対する免疫を獲得することができると言われています。海外渡航を予定している方は、麻しんの予防接種歴や感染歴を母子手帳などで確認のうえ、麻しんに感染したことがなく、かつ 2 回のワクチン接種が完了していない場合は、渡航前の接種を推奨します。また、定期接種対象(第1期:1歳の1年間、第2期:5 歳以上 7 歳未満)のお子さんは、適切な時期に 2 回の接種を受けましょう。

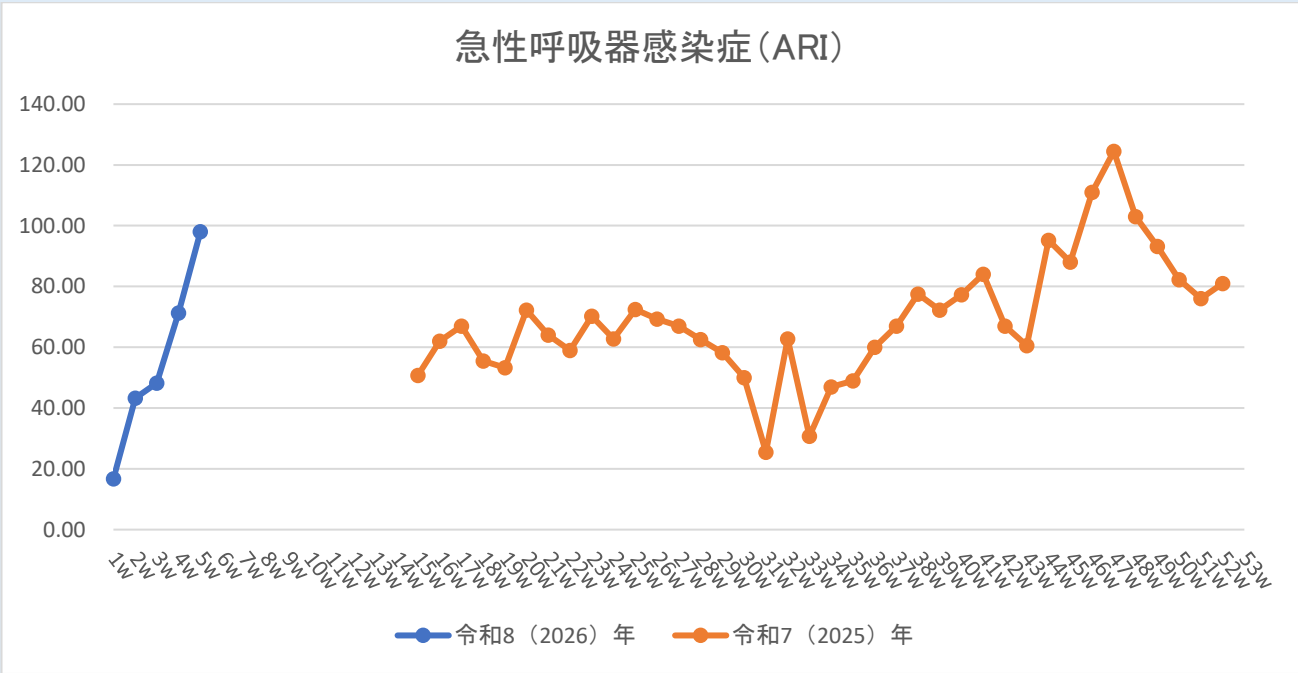
各定点把握疾患 発生状況(南丹管内)

	警報レベル		注意報	R8.5w		前週定点 (参考)
	開始	終息		定点当たり 報告数	前週比	
インフルエンザ*	30	10	10(流行1)	39.25	↗	16.00
新型コロナウイルス感染症				3.00	↗	1.50
RSウイルス感染症				2.00	→	2.00
咽頭結膜熱	3	1		0.00	→	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4		7.00	↗	6.00
感染性胃腸炎	20	12		12.50	↘	20.50
水痘	2	1	1	1.00	↘	1.50
手足口病	5	2		0.00	→	0.00
伝染性紅斑	2	1		0.00	→	0.00
突発性発しん				0.50	↘	1.00
ヘルパンギーナ	6	2		0.00	→	0.00
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	→	0.00
急性出血性結膜炎	1	0.1		0.00	→	0.00
流行性角結膜炎	8	4		0.00	→	0.00

急性呼吸器感染症(ARI)について

急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

南丹保健所管内第5週報告数は392件(定点当たりの報告数98.00)でした。[京都府の情報はこちら](#)



最新情報は下記のリンク先でご確認ください(関連リンク)

・[京都府感染症情報センター](#)

更新時期: (原則) 毎週木曜日 14 時 前週分の状況を更新

・[感染症の情報\(国立感染症研究所\)](#)